

第4回相談支援事業所連絡会「サポサポ」開催報告

【開催日時】 令和元年8月21日（水）15時～17時

【開催場所】 ふれあい22 3回研修室

【出席者】 合計36名

- 相談支援事業所・・・20名 / 11カ所
エール：2名、相談支援事業所みらい：4名、北松戸相談支援事業所：1名
サポートセンター沼南：2名、子ども発達センター：3名、松戸あんしんサポート：2名、
基幹相談支援センターCoCo：1名、聖隷はぐくみ松戸：1名、サポートネット松戸：1名
ふれあいネット松戸：1名、ヒューマンサポート：2名
- 地域包括支援センター・・・5名 / 5カ所
東部地域包括：1名、矢切地域包括：1名、新松戸地域包括：1名
五香松飛台包括：1名、明第2西地域包括：1名
- その他・・・11名 / 7カ所
しぐなるあいず：2名、社会福祉協議会：2名、基幹相談支援センター：1名
恩田第2病院：2名、ほっとねっと：1名、みらい：1名、障害福祉課：2名

第1部：事例検討会

テーマ：「障害者の権利擁護～虐待ケースにおける連携対応・成年後見の活用」

- ◎ 障害者の虐待ケース対応で、医療や法律職などの多職種とどんな連携ができるのか、成年後見制度というツールをどう活用すればよいのか、2つの事例を通して実践的に学びました。



夜間に眠れなくてイライラして母をつねるので、母もイライラ…
⇒受診して不眠の原因を探してみたら？

身体的虐待

通所先で、本人に「つねる」ことはいけないことと教えられるか？
意思を伝える代替行動を教えよう

介護疲れの母の悩みや困り事を聞いてくれる人はいるのかな？

家の環境は？家以外の場所で生活する機会を作ったらどうだろう。

身体的虐待

本人は外出したいが、外出させず、外部との接触を絶ってしまうため、本人の意欲を低下させ、行動を制限している。

ネグレクト

本人は通院希望があるのに、「無駄だ」といって病気を放置している。

ネグレクト

自分の受け取るべき年金を知らされず、母が黙って管理している **経済的虐待**



第2部：フリートーク

- ◆ テーマ①：医療・法律職など多職種との連携
- ◆ テーマ②：成年後見制度活用の実情と課題

◎医療職との連携について、高齢者の医療の確保やサポート医の活用等について意見交換できたほか、実際に成年後見へつないだ経験談から、後見制度の実情についても理解を深めることができました。



大きい病院との連携は難しい
(尻込みしてしまう…)

サポート医の活用は大事！
介護保険に関係なくとも相談
できる！

在宅医療連携センターにコーディネーターしてもらって、市立病院と地域の病院の2人の主治医を持つことが多い。

「後見人」とひとくちに言っても、
性格や得手は千差万別だよ！

一人親の場合は、いつ何があるかわからないので後見人を付けた方が良いて！

社協でも出来る事があるので、何故後見人を付ける必要があるか考える事も大切。



◎参加者の意見・感想◎

- ・周囲は明らかに「虐待」だと思っても、家族はそう思っていない場合がままある。
⇒虐待防止センターが面談しても、家族から正確なアセスメントを取れないことも多い。その家に実際入っている訪問の事業所等と連携するなどして情報を収集している。
- ・精神障害のある人を訪問する場合、最初は家族から本人への面会を断られることが多い。
- ・擁護者のストレスや疲弊が虐待につながるが多い。家族への寄り添いが必要。
⇒まずは家族との距離を縮めていかないと動きが取れない。信頼関係と情報収集が重要。
- ・障害年金の手続きで医師の意見書が必要だから、代理受診を継続している場合も。
- ・障害者虐待防止法は、虐待している人にも手助けをしていく視点。虐待が疑われるとき、センターに通報することで、その世帯に関わる支援機関が増えていく（通報が手助けの第一歩）
- ・障害分野の取り組みやそれぞれの機関の困りごとを知る、有意義な時間となった。また機会があれば参加したい。
- ・今回初めて参加し、グループ内の色々な職種の方々とお話できたことで、大変勉強になった。
- ・同じグループの中に病院の方がいたので、せっかくならフリートークで、「医療の方から見て、福祉機関との連携についてどう感じているか」も聞いてみたかった。

【次回 『サポサポ』 開催の予定】

- テーマ：生活困窮・経済支援 ～お金に関する相談について～
- 日時：10月16日(水) 15時～17時
- 場所：ふれあい22 3階研修室